



独自外交への転換

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

戦後レジームへの挑戦は、世界のパワーゲームの変更を、自己経済力を利用した独自グループの形成において提案することを提言したい。これらはアメリカの補完勢力としての自己から、独自外交を自立した成熟国家として新たな世界への参加を実現できるものとする。

これらはアングロサクソンミッションに対して、独自ビジョンを世界へ提案することである。これらは明らかに世界のパワーゲームの変更を行うものであり、日本国の有する自己プレゼンスを明確に理解できるものである。

これらは自由主義世界が支配する世界へ、新たな選択を世界に提示するものであり、周知における新世界秩序という現実に対して、新しい世界の構築を提案するものである。

これら独自外交路線は、必ず自立という現実を求められるものであり、自由主義陣営における新規マネーシステムにおける新たな世界秩序へ、独自外交における自己現実とグループ形成を提案することにおいて、現実への対峙を可能とできるものである。

これらは、独自ビジョンにおける世界への参加であり、現実が2分化を有することへ、新しい理念における現実の構築は、世界の現実が固定化することに対して、新しい現実の構築を行うことができるのである。

これは世界第3位の経済力と自衛隊を有する日本の有する世界へのプレゼンスの大きさは、世界の固定化した戦後レジームを完全に転換させることができるのである。

世界は新しい現実への転換を模索しているのである。これらアメリカの一国主義から始まる世界の現状の混乱は、その収束を明確に新世界秩序において有するのである。

ロシアのウクライナ侵攻は、世界の2分化を有するものであり、中国、ロシア、イランの連合は、明らかに第三次世界大戦を視野にいれているのである。

これらに対して新しい現実を世界に提案することは、独自ビジョンを提示することであり、現状のこれら対立に対して、第3のビジョンを提示することは、東洋にルーツを有する先進国日本が、新しい未来を提案できるものとする。